

## 高等部「作業学習（陶芸班）」学習指導案

日 時	平成30年12月17日（月） 3～4校時（10：35～12：00）
場 所	陶芸室
対 象	高等部1年3名 2年2名 3年3名
指導者	藤川健(T1) 小原一志(T2) 竹内翼(T3)

### I 単元名 「2月販売会に向けておにぎり皿を作ろう

～2月ガンフ工房販売会を成功させて1年間を締めくくろう～

### II 授業づくりの視点

#### 1 単元の設定【テーマを共有し、見通しをもって存分に活動できる単元に】

高等部では、「手織班」「木工班」「陶芸班」の3つの作業班により、ガンフ工房を組織し、日々の作業学習に取り組んでいる。また、金曜日の作業終了時には、「ガンフ集会」を設定して各作業班の取り組み状況を報告し、単元のテーマや目標を共有している。

本単元は、ガンフ工房として2月に行う販売会に向けて陶芸班でおにぎり皿作りに取り組むものである。「販売会」というテーマを掲げることで、生徒全員が自分たちの作ったおにぎり皿を売りたいという目標をもち、その実現に向けて自分や一緒に働く仲間の役割を理解し、見通しをもって精一杯活動する。これまで販売会を2回経験したことで生徒たちは、販売にはまとまった数の製品が必要なことや、製品の質を考える必要があることを実感することができた。そこで、販売会を通して「製品が売れた」という達成感や満足感を味わい、「目標を達成するために努力した経験」が社会生活につながることを願い、この単元を設定した。

#### 2 単元の計画【中心になる活動を繰り返す計画に】

本単元は、約3か月間2月の販売会に向けておにぎり皿作りに繰り返し取り組む内容とする。授業では、生徒のできる状況を作り、そこで活動を繰り返すことでよりよく取り組めるようになり、自分の力を最大限発揮して意欲的に活動する姿を目指していきたい。第1次では前単元であるあにわ祭での販売会を振り返る。一日に作る枚数や作業ができる日数を確認しながら、2月の販売会に向けて何枚おにぎり皿を作るか考える。さらに出来栄の良いおにぎり皿とはどのようなものか考え、それを作るために仲間の協力が欠かせないことを確認する。また、素焼き、本焼きに取り組む日程を確認し見通しをもって活動できるようにする。第2次は、1日5～7枚ずつおにぎり皿を作る。単元の後半は釉薬掛けや、本焼きという製品の完成までの工程に取り組む他、販売会に向けて準備や練習、販売の分担を決めることで期待感を高めていく。第3次は2月ガンフ工房販売会で、あらかじめ決めておいたチラシ係や接客係、梱包係や値札はがし係、会計係やカゴ係などそれぞれの担当に最後まで取り組みながらおにぎり皿を販売する。また、ガンフ工房の一員として

手織班や木工班の製品も販売する。第4次では販売会での活動の様子や目標の振り返りをし、売れた枚数や売上金を計算して発表することで、生徒たちが販売会を成功させたことを実感できるようにする。

### 3 活動内容【自分の力を十分に発揮して、やりがいを感じられるように】

おにぎり皿は粘土を使用して製作している。生徒は一枚作るために必要な粘土の計量をする「計量」、決められた幅に整える「つぶし」、薄く伸ばす「タタラ機」、タタラを麺棒で締めながら、決められた厚さまで伸ばす「のぼし」、伸ばしたタタラをガイドに沿って切る「型切り」、石こう型に合わせておにぎり皿の形を作る「成形」の工程を分担して取り組む。生徒一人一人の工程を固定化し、作業内容や手順を整理することで活動が分かり、自分から繰り返し取り組めるようにする。そして、得意な部分やできる活動を生かす工程を設定することで意欲につながるようにする。そうすることで、出来栄えについて考えたり、アドバイスを受け入れたりするなど、より良い製品を作ろうとするようになる。出来栄えの良いものができた際にはどこが良いのか、どのようにしてできたか等具体的に称賛し、生徒が次への意欲をもてるようにする。また、長時間集中することが難しい生徒には、複数の作業を準備して単調になることを防いだり、個別の教室を使い刺激を減らしたりすることで、集中力が続くようにする。

### 4 学習内容への支援【自分のやることが分かり自ら活動できるように】

道具を工程ごとにまとめて置く場所を決め、分かりやすくすることで前日に洗った道具の整理や当日の準備、後始末が自分からできるようにする。また、一日に作るおにぎり皿の数を決め、それぞれの工程で取り組む作業量を決めることで見通しをもって作業に取り組めるようにする。そして、適切な柔らかさの粘土を準備し、毎回同じ感覚で作業に取り組めるようにすることで出来上がりが均一になるようにする。さらに、ミーティングで作業の注意点を確認し、出来栄えを意識しながら作業に取り組めるようにすることでより良い製品作りができるようにする。

### 5 協働的活動への支援【共に活動し、お互いに協力し合えるように】

黒板に準備物一覧表を提示することで、ミーティング前に生徒が自分でその日に使う道具を確認しながら準備できるようにする。また、準備した道具の欄に名札を貼ることで、仲間がどの道具を準備したかが分かるようにする。その日それぞれの役割を果たすことで目標数のおにぎり皿が出来上がるようにし、機会を捉えて誰が欠けても製品が出来上がらないことを伝えることで、最後まで責任をもって作業をすることが協力の一つであると意識できるようにしたい。作業の時間はタイマー系の生徒が終了時間に声を掛けるようにすることで、次の活動にスムーズに取り掛かれるようにする。必要なときに仲間と声を掛け合い、確認し合う場を設定し、協力しながら作業に取り組めるようにすることで、仲間を欠かせない存在として認め合う姿を引き出していきたい。教師は生徒と一緒に工程の一部を担当したり、環境を整えたりしながら生徒の報告に対応する。作業の出来栄えを評価したり、仲間と協力する機会を見付け、促したりすることで生徒の意欲を引き出すようにする。金曜日は作業で気を付ける点の確認や販売会に向けて出来栄えの良い製品を作るための話し合いを教師も一緒に行い、生徒の販売会への期待を高めていきたい。

### Ⅲ 単元の目標【単元で目指す主体的な姿】

- 1 販売会に向けて、意欲的に作業をする。
- 2 仲間と協力して、みんなでおにぎり皿作りに取り組む。
- 3 仲間と協力して、販売の準備をしたり、当日の販売活動をしたりする。

### Ⅳ 単元計画（総時数131時間、41日間）

	主な活動内容	月 日	時 数
第1次	オリエンテーション	11月21日（水）	3時間
第2次	おにぎり皿の製作 販売準備	11月22日（木） ～2月18日（月）	116時間 (本時29～30/116)
第3次	販売会	2月19日（火）	6時間
第4次	販売会事後学習	2月20日（水）	6時間

### Ⅴ 本時の授業

#### 1 本時の授業について

本時は本単元の29～30時間目にあたる。生徒は場の設定や一日の作業の見通しがもてるような支援、挨拶をはじめとしてお互いに声を掛け合うための支援を受けながらおにぎり皿作りに繰り返し取り組んできた。それにより工程を理解し、自分から作業に取り組めるようになってきた。さらに、仲間同士で依頼やお礼の声を掛け合う様子が見られるようになってきた。また、あにわ祭販売について振り返り、教師と相談しながら単元の目標を決めた。また、作業内容の見直しを行い、ひび割れを防ぐために一枚に使う粘土の量を増やした。そして作業スピードが上がったことを受けて、粘土作りに関わる仕事や新しい製品作りの追加を検討した。そこで本時は5枚のおにぎり皿を仲間と協力しながら製作し、追加された作業にも取り組むこととした。計量やつぶし、タタラ機は複数の作業を準備して、十分な作業量を確保する。のぼしを担当するグループではタタラの凹みや布のしわなどに意識を向けるよう支援をしながら、きれいなタタラを作る。型切りや成型など仕上げに関わる工程では、タタラに傷やしわがないか仲間や教師と確認し合うことで出来栄の良い製品作りに取り組む。その中で仲間への依頼の声掛けをし、分からないところを確認しながら、自分の仕事に最後まで取り組む姿を目指したい。また、周りからの刺激を減らすために、別の教室で教師の支援を受けながら仲間や教師から依頼された仕事に取り組んできた生徒もいる。作業確認シートや依頼状を開わりのきっかけとしながら、見通しをもって作業に取り組み、仲間や教師と適切に関わる経験を積み重ねていきたい。

#### 2 本時の目標【本時で目指す主体的な姿】

- (1) 販売会に向けて一日の目標数の完成を目指したり、出来栄を意識したりしながら、担当する工程に最後まで取り組む。
- (2) 前後の工程の仲間や教師と協力し合ったり、出来栄を確認し合ったりしながら作業に取り組む。

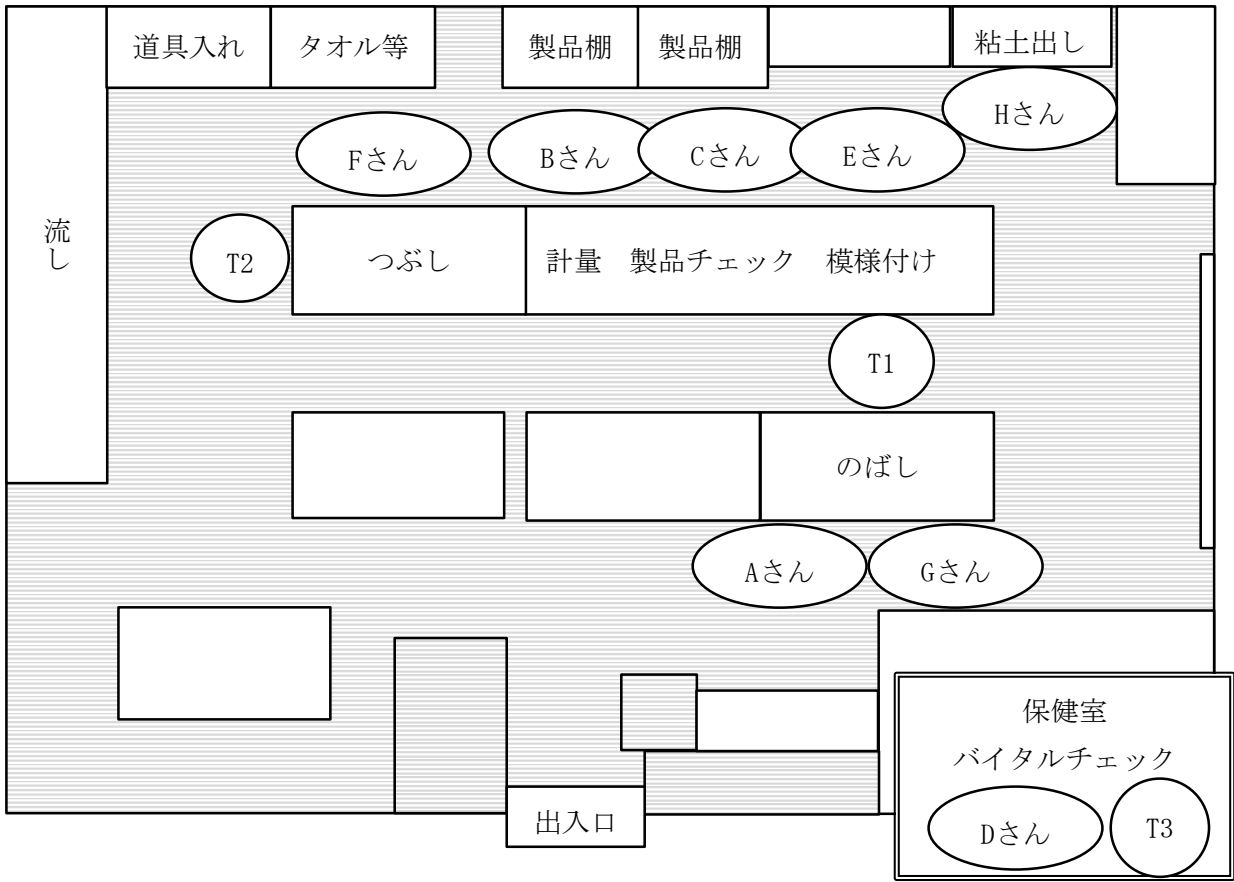
### 3 本時の展開

学習活動（時間）	支援上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業の準備をする。</li> <li>1 始めのミーティング（10：35～10：40）</li> <li>・班長の声掛けで挨拶をする。</li> <li>・自分の分担や気を付ける点、担当する教師を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて声を掛ける。</li> <li>・姿勢を正して挨拶ができるように、必要に応じて声掛けをする。</li> <li>・スムーズに作業に入れるように、必要なことのみ短時間で確認する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>2 作業（10：40～11：35）</li> <li>・それぞれの工程に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・T1は陶芸室でも模様付けの支援後、高2教室でDさんの支援、陶芸室でのばし、型切り、成形の支援を行う。</li> <li>・T2はつぶしと計量、クラッシャーの支援を行う。</li> <li>・T3は保健室でDさんの支援後、陶芸室でタタラ機、高2教室でDさんの支援を行う。</li> </ul>
<p>＜計量→すいひ＞（Bさん）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・粘土を計量する。1kgの粘土を7個作る。</li> <li>・素焼きのカップ20個に水で溶かした粘土を注ぐ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘土のおおよその量が分かる補助具を準備する。</li> <li>・一杯ずつ注げるように素焼きカップとほぼ同じ大きさのカップを準備する。</li> </ul>
<p>＜つぶし→割りかた＞（Fさん）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計量後の粘土を5個、つぶして決められた大きさにする。</li> <li>・クラッシャーに掛けるための乾いたタタラを小さく割る。</li> </ul>	<p>T2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ回数潰せるようにマグネットを14個準備する。</li> <li>・2つの工程への集中力が続くよう、つぶしと割りかたに交互に取り組めるようにする。</li> <li>・終わりが分かるよう、割る前と割った後の粘土を入れる容器を別々に準備する。</li> </ul>
<p>＜模様付け→タタラ機→クラッシャー＞（Eさん）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タタラ2枚に模様を付ける。</li> <li>・つぶした粘土7個をタタラ機で伸ばす。</li> <li>・クラッシャーですいひ用の粘土を砕く。</li> </ul>	<p>T1→T3→T2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんの模様ができるよう、色々な形に切り抜いた網を準備する。</li> <li>・粘土がはみ出したり変形したりしないよう、粘土を置く位置や手で支える所に印を付ける。</li> <li>・見通しをもてるように砕く粘土をカップで小分けにし、一つのカップに取り組む時間をタイマーで設定する。</li> </ul>
<p>＜のばし→布洗い＞（Aさん）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タタラを5枚伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タタラ板から麺棒が外れた状態で伸ばすことがないように十分に長いタタラ板を準備する。</li> <li>・タタラの凹みを確認する手順を作り、教師に報告をすることで、凹みを意識しながらのばしに取り</li> </ul>

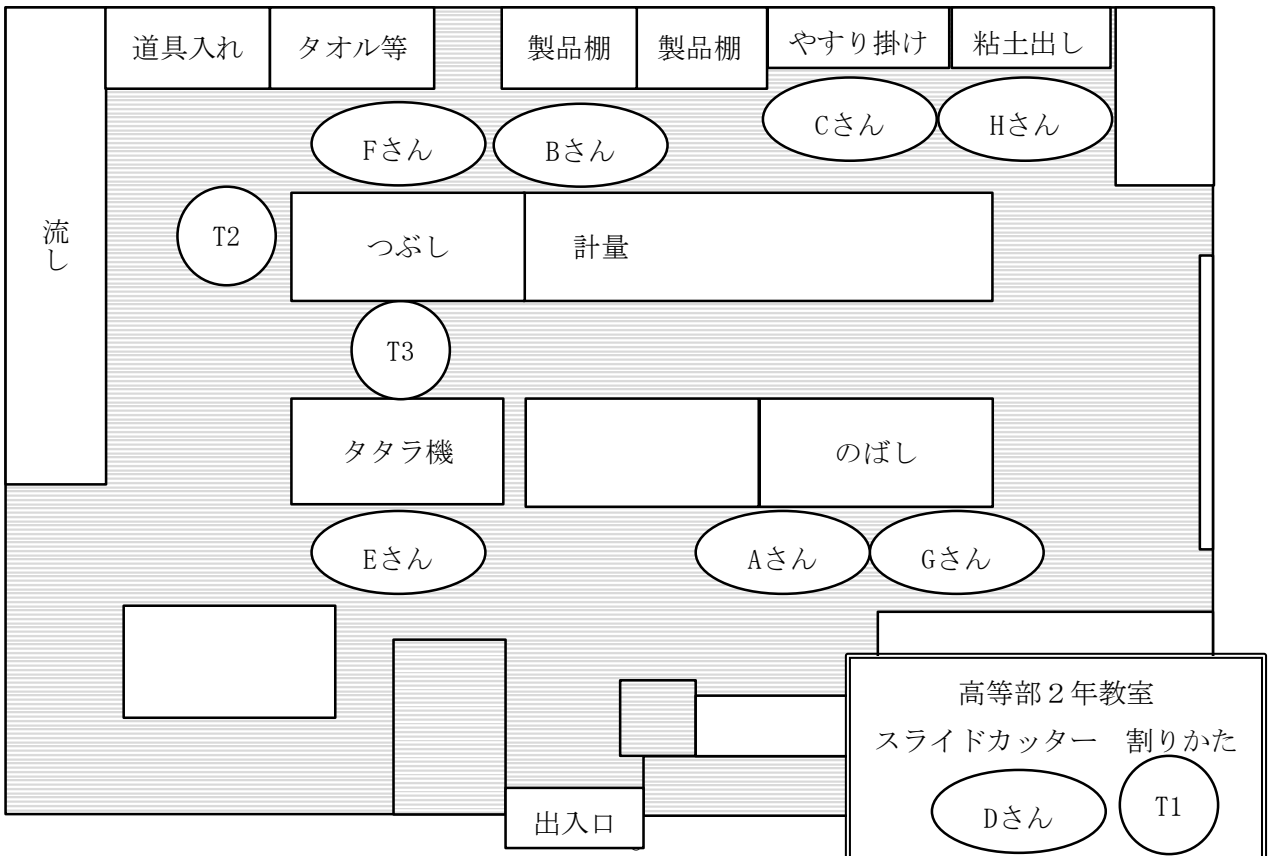
	組めるようにする。
<p>&lt;のばし&gt; (Gさん)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タタラを5枚伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タタラ板から麺棒が外れた状態で伸ばすことがないように十分に長いタタラ板を準備する。</li> <li>・麺棒がずれないように両手がタタラ板の内側になるように確認する。</li> </ul>
<p>&lt;製品チェック→やすり掛け→型切り&gt; (Cさん)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先週作ったおにぎり皿の品質チェックをする。</li> <li>・品質チェック後の製品にヤスリを掛ける。</li> <li>・タタラを5枚おにぎり皿の形に切り抜く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未確認、ゆがみなし、判断が難しいものをそれぞれ分ける籠を準備する。</li> <li>・手で滑らかさを確認し、取り組むよう伝える。</li> <li>・切り針がガイドの内側に傾かないよう伝える。</li> </ul>
<p>&lt;粘土出し→成形&gt; (Hさん)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すいひ後の粘土を素焼きカップから出す。</li> <li>・おにぎり皿の成形をする。</li> <li>・成形で使った後の布を洗う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘土の乾燥を防ぐため、ビニールを掛けるように伝える。</li> <li>・縁が波打たないようにするため、指全体を使ってタタラをガイドに密着させるように伝える。</li> <li>・掃除時間に干せるように洗った布を入れるボウルを流しに準備する。</li> </ul>
<p>&lt;バイタルチェック→スライドカッター割りかた→シュレッダー&gt; (Dさん)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健室でバイタルチェックを行う。</li> <li>・スライドカッターでシュレッダー用の紙を準備する。</li> <li>・クラッシャーに掛けるための乾いたタタラを小さく割る。</li> <li>・シュレッダーに取り組む。</li> </ul>	<p>T3→T1→T3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業が始まることやその日の流れを意識できるように、作業チェック表に記入欄を設ける。</li> <li>・終わりの見通しがもてるように広告の枚数を決める。</li> <li>・終わりが分かるよう、割る前と割った後の粘土を入れる容器を別々に準備する。</li> <li>・落ち着いて取り組めるよう慣れた作業を準備する。</li> </ul>
<p>3 片付け・掃除 (11:35~11:45)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・片付け、掃除をする。</li> </ul>	<p>T1:Fさん T2:Eさん、雑巾 T3:Dさん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除分担を固定し、分かりやすくする。</li> <li>・自分の拭く範囲を決め、効率よく拭き掃除ができるように、テープで床を区切る。</li> <li>・教師も掃除をしながら必要な声掛けをする。</li> </ul>
<p>4 終わりのミーティング (11:45~12:00)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業を振り返る。</li> <li>・班長の声掛けで挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞く姿勢を確認してから話を始める。</li> <li>・気を付ける点にどう取り組んだか確認する。</li> <li>・姿勢を正して挨拶ができるように、必要に応じて声掛けをする。</li> <li>・退室の声掛けに答える。</li> </ul>

### 3 配置図

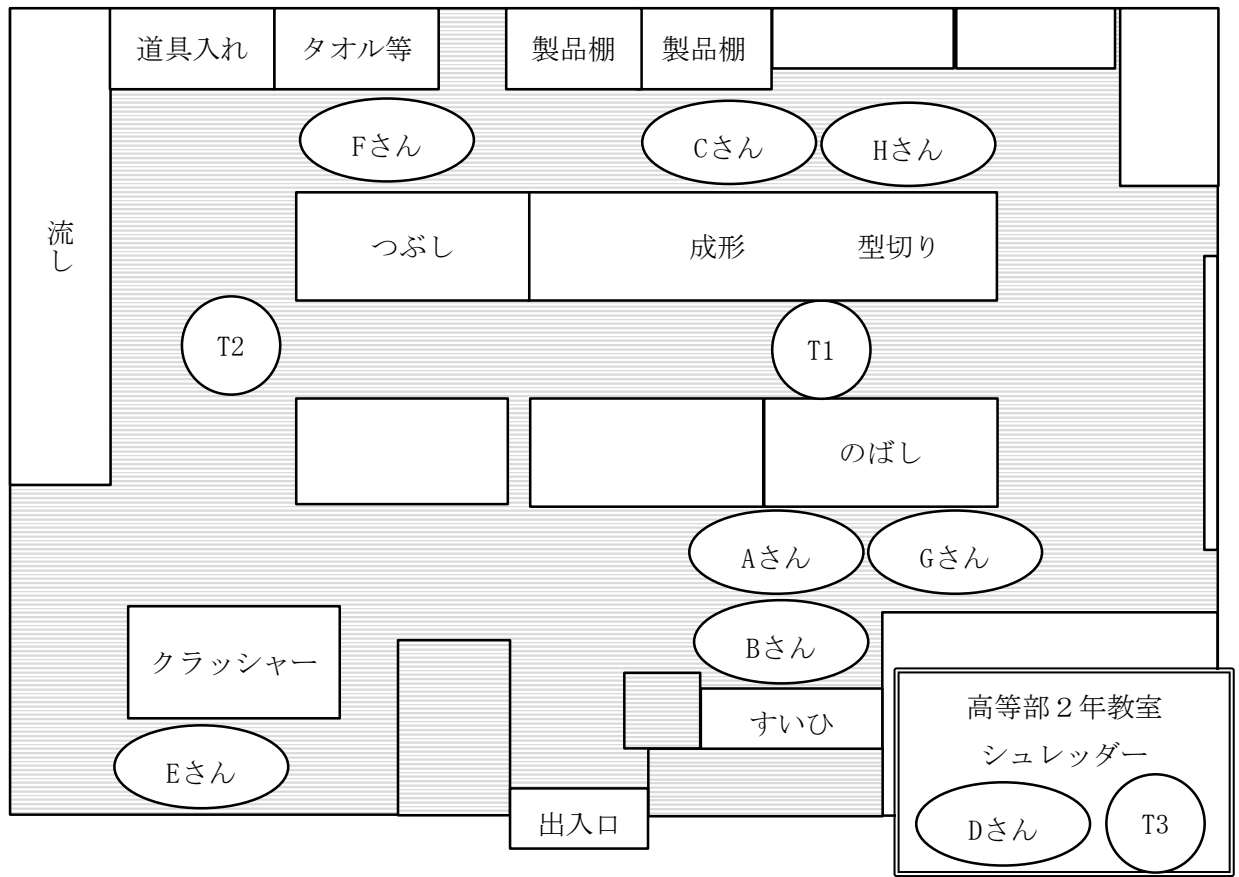
<開始直後>



<作業前半>



<作業後半>



## VI 個人の目標及び支援

氏名等	現在の活動の様子	本時について	
		本時の目標	本時の支援（教材教具、場の設定、教師の働きかけ、その他）
Aさん (1年女子) のぼし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タタラを伸ばす前に、仲間同士でタタラの布にしわがないか確認をしている。一瞬で判断する様子から、確認できているか分からないところがある。</li> <li>・困ったときに教師に依頼をすることができるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・布にしわがないか仲間同士で確認し、凹凸のないタタラを作る。</li> <li>・タタラに凹みがあったときにそれに気づき、教師に修正を依頼する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手によく見える高さまで布を持ち上げるよう促す。</li> <li>・タイマーに合わせてタタラの様子を自分で確認し、自分から教師に依頼することができるように、依頼の文章例を作業台に貼り付ける。</li> <li>・担当の教師を黒板に掲示しておく。</li> </ul>
Bさん (1年男子) 計量 すいひ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事内容を理解しており、計量を時間内に終えるようになってきた。より良い製品を作るために作業方法を自分で考えたり、なぜその作業をするのか興味をもったりすることができる。</li> <li>・時間を意識して自分の行動をコントロールすることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計量とすいひの目標数を意識して時間内に終わらせる。</li> <li>・作業時間を意識し、時間までに作業に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書の表示に加え、目標数が確認できるホワイトボードを準備する。</li> <li>・作業の進み具合が分かるように、計量後の粘土を入れる器を目標数と同じ数だけ準備する。</li> <li>・計量する際に、おおよその量が分かる補助具を準備する。</li> <li>・時間を意識できるよう、iPadで出勤、退勤時間を示す。</li> </ul>
Cさん (1年男子) 小皿成形 型切り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し同じ作業に取り組んだり、気を付ける点を伝えたりすることで技術的な向上が見られる。</li> <li>・自信がなさそうな様子を見せながらも報告せずに作業を進めることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タタラをガイドに合わせてきれいに切り取る。</li> <li>・タタラを確認し、必要に応じて教師に報告する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切り針がガイドの内側に傾かないようにすることを伝える。</li> <li>・タタラを切りやすい方向に回すことができるよう、専用の板を準備する。</li> <li>・何に困っているか伝えられるよう、教師が聞き取りながら報告内容を整理する。</li> <li>・場面に応じて、仲間への報告や相談を促す。</li> </ul>



<p>Dさん (2年男子) バイタルチェック スライドカッター わりかた シュレッダー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一度経験した工程や手順は、教師の説明やプリントを見ることで理解することができる。</li> <li>「作業確認シート」を教師と一緒に確認することで、見通しをもって取り組み始める様子が見られるようになってきている。</li> <li>周りの人と関わりたい気持ちが強いが衝動的になったり、相手が不快になる関わりになったりすることがある。</li> <li>挨拶や依頼、報告の際、適切な関わり方をしたり、仲間の称賛にうれしそうな表情を見せたりすることが増えてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>その日の作業内容が分かり、自分から取り組む。</li> <li>周りと適切に関わって報告したり、ミーティングに参加したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工程名や手順、活動場所、担当教師等を「作業確認シート」に示しておく。また、終わった作業や次の作業が分かりやすいように、自分や教師のサインを記入する欄を設ける。</li> <li>「作業確認シート」を準備し、読み上げたり、指差ししたりして、注目を促しながら確認する。</li> <li>作業に安心して、また集中して取り組めるように個別の教室を準備する。</li> <li>複数の教師と関わるように、曜日や工程で一緒に活動する教師や報告する教師を交替する。</li> <li>個別の場所で活動しているので、仲間から発注を受けたり、報告したりする場面を設定する。</li> <li>終わりのミーティングに参加して、仲間の称賛を受ける場面を設定する。</li> </ul>
<p>Eさん (2年女子) 模様付け タタラ機 クラッシャー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タタラ機の操作工程を覚えて手順どおり取り組むことができるが、タタラが布からはみ出したまま作業を進めることがある。</li> <li>準備を忘れることがあるが、声を掛けると準備や後片付けに取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タタラが中心になるように布を置いて、タタラ機の作業に取り組む。</li> <li>道具の準備や片付けを自分から行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タタラ機から粘土がはみ出ないように、粘土を置く場所や手を添える場所に印を付ける。</li> <li>タタラを置く中心が分かるよう、布に印を付ける。</li> <li>道具を籠やケースにまとめておき、作業場所の近くに準備する。</li> <li>忘れているときは、依頼の声掛けをする。</li> </ul>
<p>Fさん (3年男子) つぶし</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工程を覚えて作業に取り組むことができる。つぶしの順番が分からなくなったり、目標数が終わる前に移動したり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>つぶしの工程で手順どおりに一人で取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シートを自分で置いたり、粘土を包んだりできるよう、作業場所や物の置き場所を固定する。</li> <li>終わりが分かるよう、マグネットで潰す回数を示す。</li> </ul>

わりかた	<p>することがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・声掛けが必要なことがあるが、自分の次の工程が分かり作業をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次に取り組む作業が分かり、自分から移動し、作業を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動のタイミングが分かるように、次の作業に移動する個数の材料を準備したり、時間をタイマーで示したりする。</li> <li>・忘れているときは依頼の声掛けをする。</li> </ul>
Gさん (3年女子) のぼし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具の扱いや手順を覚え、自分の力でタタラをほぼ伸ばしきることができる。</li> <li>・途中でタタラ板から粘土がはみ出ても、気付かず伸ばし続けることが多い。</li> <li>・慣れた場面や話し方については、大きな声で自信をもって依頼や報告をする。</li> <li>・慣れていない内容の依頼や報告場面では考え込んで言い出せない様子が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タタラやタタラ板を置く位置を自分で確認して、タタラ伸ばしに取り組む。</li> <li>・伝える内容を自分で考えて、仲間や教師に依頼や報告をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タタラのはみ出しが少なくなるように、タタラ板を長くする。</li> <li>・置く位置の目安となるように、台にタタラ板を置く位置の長さの木材を設置し、中央に矢印を付けておく。</li> <li>・置く位置を自分で確認したか、時々問い掛ける。</li> <li>・必ず報告してほしい場面や内容を決めておく。</li> <li>・依頼や報告をする際に、伝える内容を考えやすくなるように、文例カードを提示する。</li> <li>・報告できたことを、即時又はミーティングで称賛する。</li> </ul>
Hさん (3年男子) 粘土出し 成形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手順を覚えておにぎり皿を仕上げるることができる。指先で粘土を押し込むことで縁に凹みができることがある。</li> <li>・作業を終えたときに報告せずに後片付けを始めることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指の使い方が分かり、おにぎり皿の成形をする。</li> <li>・成形後に取り組む作業を教師に確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指先で形を作ると凹凸ができるので、指全体を使い、皿の縁をまっすぐに仕上げるよう伝える。</li> <li>・粘土出しやバリ取りなど依頼したい作業が他にも複数あり、状況に合わせて変わることを事前に伝える。</li> </ul>